



**ICT OPEN CLASS**  
**@es-abeno**  
**R1.11.1 (FRI)**



## 参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、校内の写真撮影・ビデオ撮影は、次の点、お守りいただくことを前提に許可します。

- 子どもの顔は、なるべく撮らないこと。
- フラッシュは使用しないこと。
- 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用すること。
- 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと(これについては、いかなる理由があっても許可できません)。
- 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと(教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます)。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。

2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。

3. 教室入口付近に固まらず、奥にお進みください。

4. 携帯電話、スマートフォンはマナーモードにしてください。

また、「Bluetooth」「Wi-Fi」機能をオフにしてください。

5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。

6. 休み時間等には、子ども達の動線にお心遣いください。

令和元年度 大阪市教育局「学校教育ICT活用事業」拠点校

## 大阪市立阿倍野小学校 第2回ICT公開授業

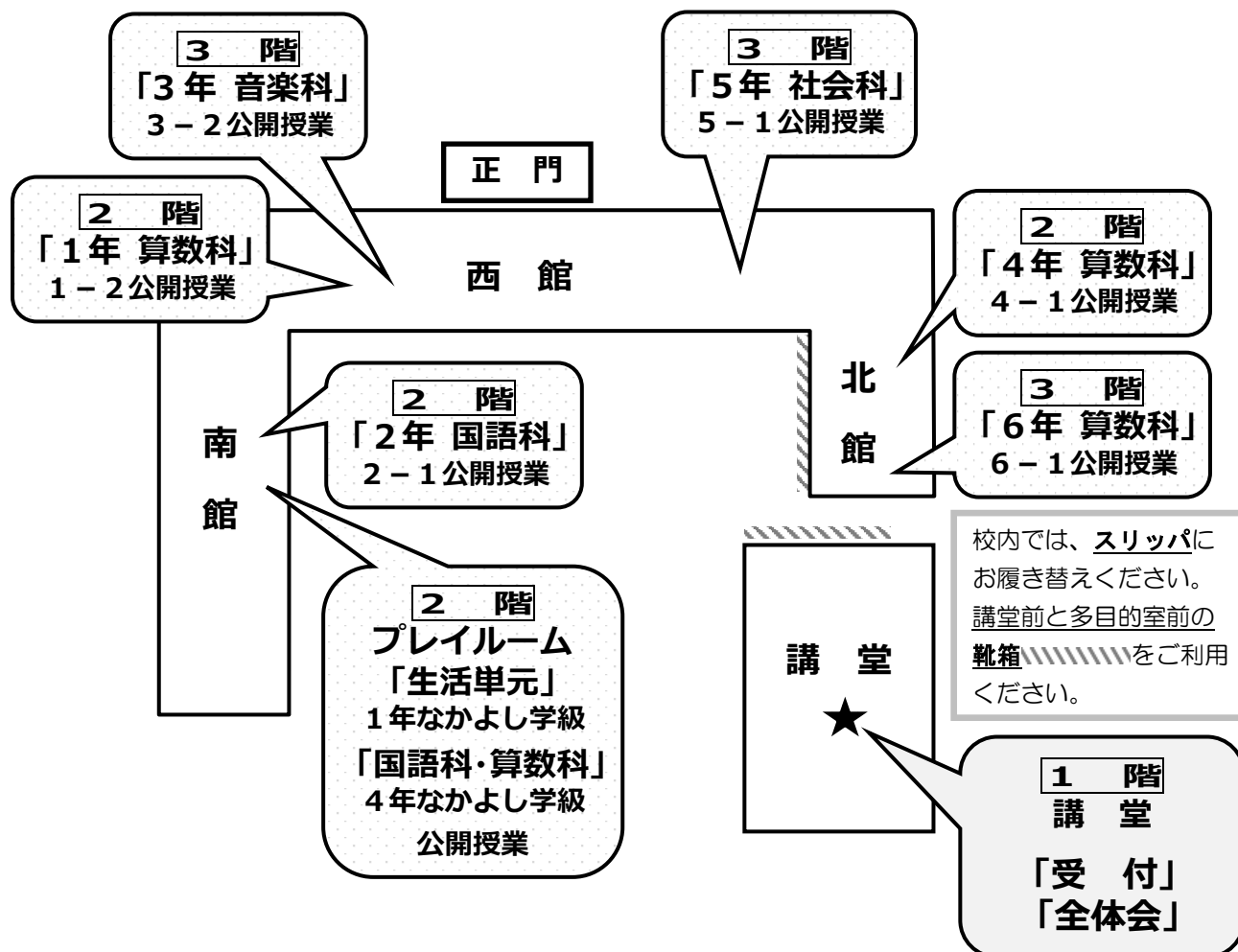
ともに学び、自ら学び、学びを深める子どもの育成

～ 学習の基盤となる資質・能力を高める学習の構築 ～

### 【時 程】

13:10	13:30	13:45	13:50	14:35	14:50	15:35	15:50	17:00
	全体会 1(講堂)		公開授業 (各会場)		公開授業 (各会場)		全体会 2 (講堂)	
受	本日の授業 ICT 活用の ポイント	移 動	1 年 2 組	移 動 ・ 休 憩	4 年 1 組	移 動 ・ 休 憩	【分科会】 ブースセッション	
付			2 年 1 組		5 年 1 組			
			3 年 2 組 (音 楽 室)		6 年 1 組			
			1 年なかよし学級 (プレイルーム)		4 年なかよし学級 (プレイルーム)			【指導講評】 【パネルディスカッション】 堀田 博史 先生 (園田学園女子大学教授)

### 【会場図】



# ようこそ 阿倍野小学校 ICT 公開授業へ

季秋の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動に何かとご理解・ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、本校では、「ともに学び、自ら学び、学びを深める子どもの育成」を研究主題に、ICT 機器を活用した教育活動の実践に取り組んでおります。

本日、今年度第2回公開授業（通算18回目）を開催しましたところ、ご参会いただきありがとうございます。ここに謹んでお礼申し上げます。ICT活用と指導の更なる充実を図るべく、皆様からご教示いただいたことを生かしまして、さらに研究を積み重ねていく所存でございます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪市立阿倍野小学校長 吉田 恵美子

【受付】(13:10～ 於：講堂)

【全体会1】(13:30～13:45 於：講堂)「本日の公開授業 ICT活用のポイント紹介」

【公開授業】5限(13:50～14:35 於：各会場)

主な活用機器…電子黒板、タブレット端末

学年・組 場所	教科等	単元・内容	授業者	活用コンテンツ等
1年2組 教室	算数科	みちすじを かんがえよう 【プログラミング学習】	山田 美沙	TrueTrue® iPad
2年1組 教室	国語科	おもちゃ教室をひらこう	木村 恭子 見市 将太	SKYMENU Class (発表ノート)
3年2組 音楽室	音楽科	せんりつの とくちょうを 感じ取ろう	福村喜久代 櫻井 里絵	NHK for School【おんがくブラボー】 ‘せんりつづくり’は こわくない！ SKYMENU Class (発表ノート)
1年なかよし学級 プレイルーム	生活単元	ことば・かず	米倉 恵夢 二宮 朗子	SKYMENU Class (発表ノート)

【公開授業】6限(14:50～15:35 於：各会場)

主な活用機器…電子黒板、タブレット端末

学年・組 場所	教科等	単元・内容	授業者	活用コンテンツ等
4年1組 教室	算数科	およその数の表し方を考えよう	山本 淳子 木村 拓也	NHK for School【算数刑事ゼロ】 「四捨五入」の心理トリックに気をつけろ～がい数～ SKYMENU Class (発表ノート)
5年1組 教室	社会科	自動車づくりにはげむ人々	山田 真衣 二宮 朗子	SKYMENU Class (発表ノート)
6年1組 教室	算数科	比例と反比例 【プログラミング学習】	別所 英文	Scratch Desktop SKYMENU Class (発表ノート)
4年なかよし学級 プレイルーム	国語科 算数科	漢字や計算にチャレンジ！	須田 帆南 櫻井 里絵	SKYMENU Class (発表ノート)

【全体会2】(15:50～17:00 於：講堂)

【分科会】ブースセッション

【指導助言】【パネルディスカッション】

講師 園田学園女子大学教授 堀田 博史 先生

[illegible]

# 研 究 の 概 要

## 《研究主題》

### ともに学び、自ら学び、学びを深める子どもの育成

#### ～学習の基盤となる資質・能力を高める学習の構築～

本校では、これまでに子どもたちの主体的な学びを育むため、単元構成や授業の学習過程において問題解決的な学習を取り入れてきました。また、問題解決のために、協働的な学びの場を多く設定し、思考を可視化させ、比較、検討することを通して、コミュニケーション能力も育てながら、さらなる思考の深化を目指してきました。その際に、ICTを有効なツールとして活用し、教科の特性や「どの段階」で「どんな力」をつけさせたいかを考え、子どもたちの活動がより有意義なものになるように研究を進めてきました。

次期学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）がキーワードとして取り上げられています。これを、本校では、学習のプロセスの中に問題解決的な学習やグループディスカッション、ディベート、グループワークなどの方法で協働的な学びを取り入れ（対話的）、その学びの中で、考えの比較や知識の関連づけ、情報の収集・整理・発信など、思考・判断・表現の活動を明確に行い、個々の思考を深化させ（深い学び）、その上で、学習課題に対して粘り強く取り組み、課題達成を目指すことができる（主体的）子どもを育成することだと捉えています。そして、これらの学習活動を行うことで、最終的に一人一人の学びを確かなものにすることができると考え、本主題を設定し研究を進めています。

また、今回の答申では「言語能力」、「情報活用能力」、「問題発見・解決能力」を「学習の基盤となる資質・能力」とし、教科横断的に育成することについても掲げられています。しかし、これまでの研究で、本校が主体に置く協働的な学びの中の話合い活動では、その学年までにつけておくべき「話す・聞く」の力が育っていないと話合いが充実したものにならないこと、子どもたちが問題を主体的に追究していくためには、課題設定の工夫が不可欠であること、学習過程を改善するためにインターネットや動画などから必要な情報を読み解く力が必要なことが課題として挙がりました。そこで、「学習の基盤となる資質・能力」の3つの力を育成していくために次の6つの視点を設定しました。

### 思考力・判断力・表現力の育成

子どもたちの話合いの枠組みとなる「見方・考え方」を指導者が明確にもち、それを発問の中で示すことによって問題解決に向けて質の高い話合いができるようにする。その際、「思考の方法」(何を使って、どのように高めていくのか等)や「表現の方法」(話し合ったことを誰に、どのように伝えるのか等)も明確に示すようにする。

### 情報活用能力の育成

昨年度に作成した「情報活用能力系統表」に沿って授業実践を行い、各教科・領域の中で、正しく必要な情報を読み解く力やそれらを活用する力を養うことによって、問題発見から解決に至る学習過程の中で応用できるようにする。

### 効果的な ICT 活用

これまでに本校が進めてきた、「思考の可視化」・「思考の伝達」・「思考の比較」の場面での ICT の活用を引き続き行い、その力を更に培っていく。また、学習スタイルによって、子どもたち自身が ICT 活用の型を選択したり、学習の中で得たことをふり返りで再度活用したりすることができるようにする。

### 主体的な学びのための探求的な課題設定

動画や図、グラフを活用して子どもたちとともに課題を設定したり、学習したことを総合的に活用できるパフォーマンス課題を設定したりして、子どもたちが学習に対して、「やってみたい」、「解いてみたい」と意欲を高め、さらに、単元を通して学習意欲や目的意識を持続させることができるようにする。

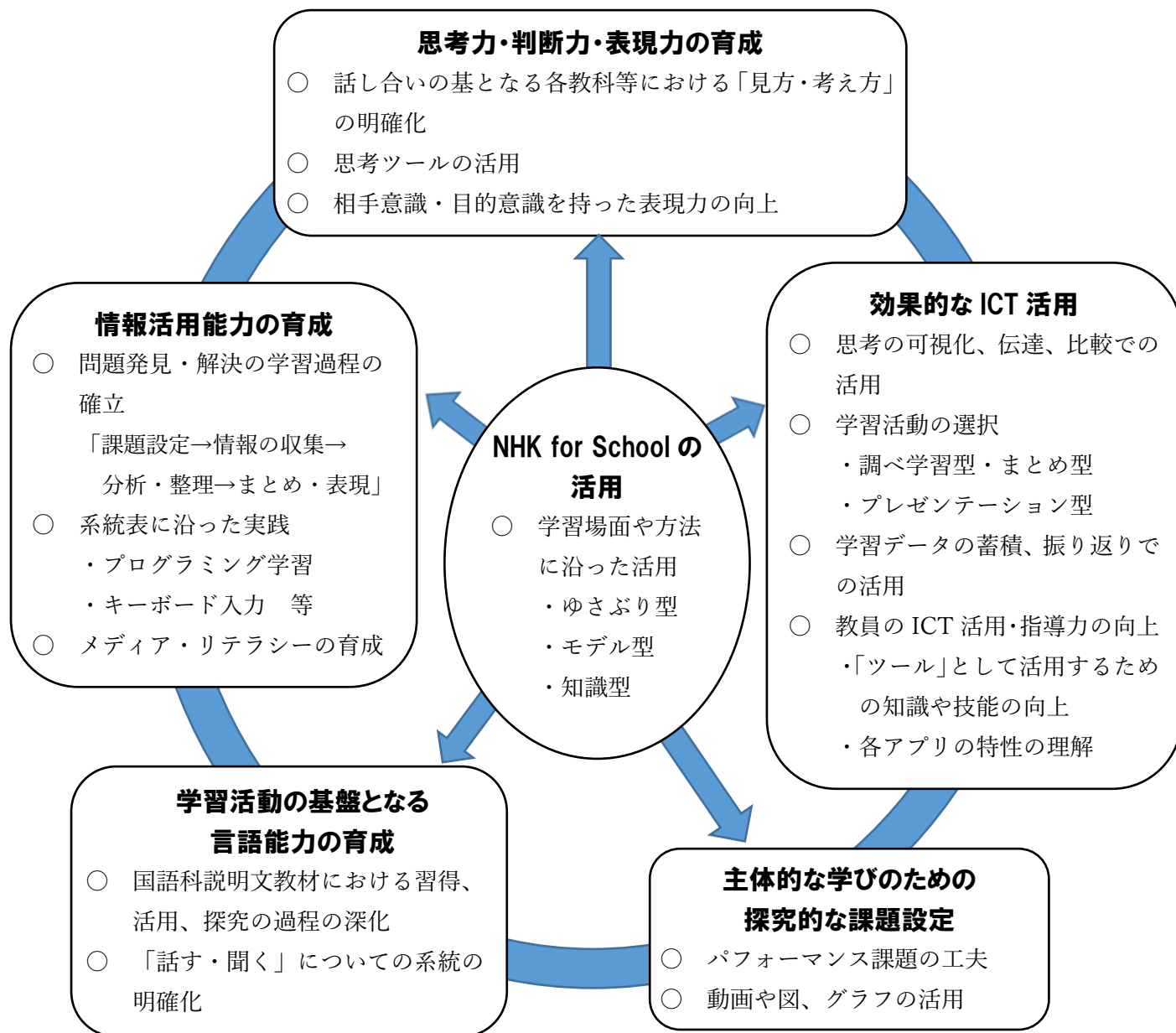
### 学習活動の基盤となる言語能力の育成

国語科の〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」に焦点をあて、主に、国語科説明文教材の学習内容を習得・活用・探究していく過程で、「話題の設定」や「内容・構成の検討」、「表現」、「共有」、「精査・解釈」などの活動を行いながら言語活動の質を高めていけるようにする。また、他の教科・領域の学習においても、それらの学習活動を活用できるようにする。さらに、各学年の学習内容を活かして対話できるようにするために、「話す・聞く」力に関する系統性を意識して指導に取り組む。

### NHK for School の活用

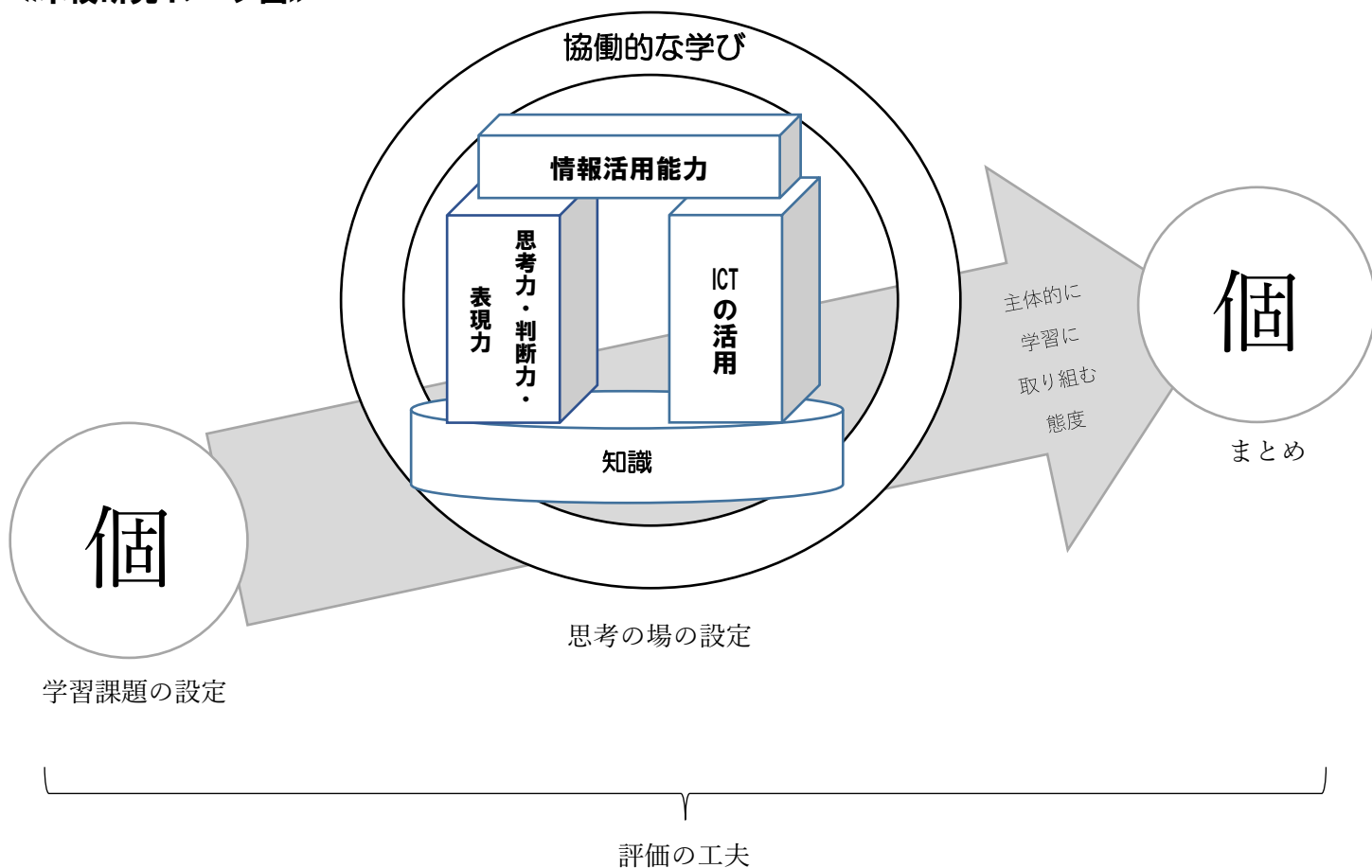
NHK for School の番組やクリップの特性を生かして、課題設定や学習計画づくりに活用したり、児童の思考を揺さぶったり、知識を養ったりするなど、指導者が目的を持って学習過程の改善をすすめる。その学習過程の中で、動画の中の多くの情報から必要な情報を正しく読み取る力を育てられるようにする。

《研究の視点【協働的な学びを通して、個の学びを確かにする】》

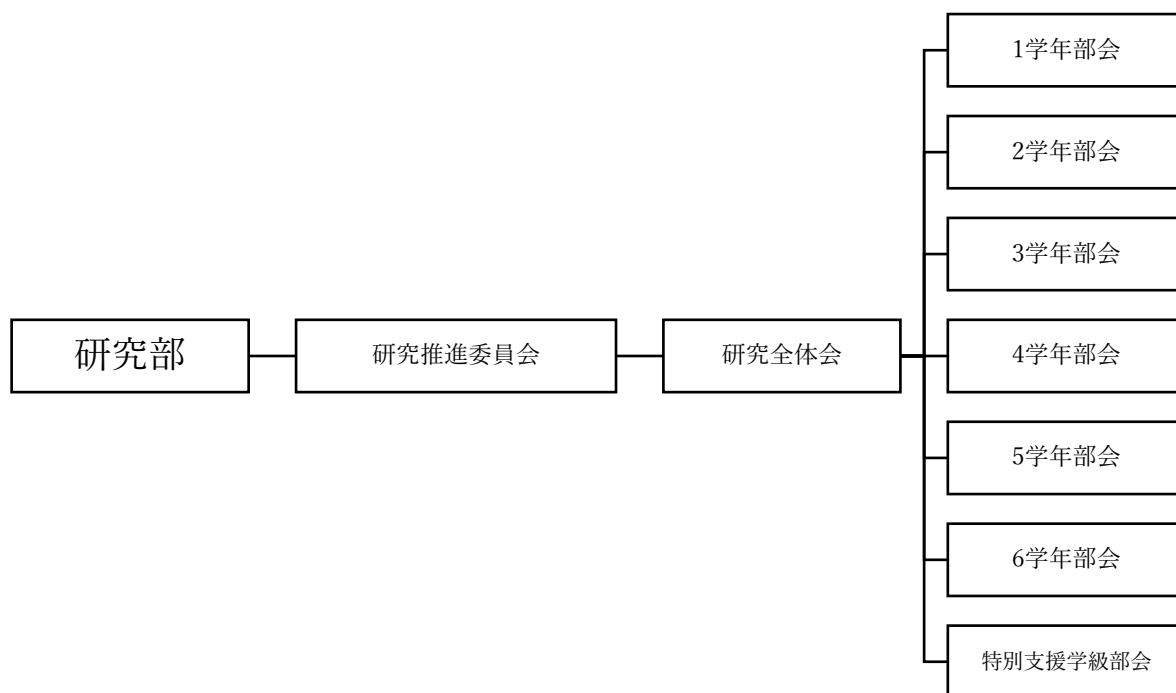




## 《本校研究イメージ図》



## 《研究組織》



[illegible]

# 第1学年 算数科（プログラミング）学習指導案

授業者 山田 美沙

- 1 学年・組 第1学年2組 37名
- 2 場 所 1年2組教室
- 3 単 元 名 「みちすじをかんがえよう」
- 4 目 標
  - 上下・前後・左右などの方向を表す言葉と進む数を組み合わせて、考えた道筋を説明することができる。
  - ものごとに手順があることに気づき、ペアで協力して最後までやり遂げようとすることができる。

## 5 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
算数科	進む数と上下・前後・左右などの方向を表す言葉の意味を理解して正しく用い、道筋を言い表すことができる。	基準点から進む数と方向を定めて、決められた道筋を表すことができる。	2つの要素を用いると位置が表せることのよさに気づき、日常生活に生かそうとする。
プログラミング		ものごとに手順があることに気付くことができる。	目的を意識して、最後までやり遂げようとする態度を養う。

（出典）：プログラミングで育成する資質・能力の評価規準（株ベネッセコーポレーション）

（<http://benes.se/keyc>）（2019年10月9日にアクセス）

## 6 指導計画（全3時間）

次 時		主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	・外国人観光客に、街を案内するため、道筋通りにロボットを動かす。	・簡単な道筋を提示することで、基本的な True True の操作方法を理解できるようにする。 ・並べたカード（写真）を iPad に記録することで、思考の流れを振り返ることができるようにする。
	2	・来校者に校内を案内する道筋をペアで考えて話し合い、道筋通りにロボットを動かす。	・ロボットが動ける範囲に制限を設けることで、ペアとの話し合いが活発になるようにする。 ・掲示物で前時の既習事項を確認できるようにすることで、話し合いがスムーズに行えるようにする。 ・並べたカード（写真）を iPad に記録することで、思考の流れを振り返ることができるようにする。 ・ロボットの動き（動画）を iPad に記録することで、学級全体で道筋を共有できるようにする。
	3 （本時）	・見守り隊の人たちに手紙を届ける道筋をペアで考えて話し合い、道筋通りにロボットを動かす。	・ロボットが動ける範囲に制限や条件を設けることで、ペアとの話し合いが活発になるようにする。 ・並べたカード（写真）を iPad に記録することで、思考の流れを振り返ることができるようにする。 ・ロボットの動き（動画）を iPad に記録することで、学級全体で道筋を共有できるようにする。

## 7 本時の学習

### 《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する ■学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 □指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 ■その他(True True・授業用PC)
活用コンテンツ等	○ 写真・動画(iPad)
ICT活用プログラミングのポイント	○ True Trueを使用することで、ペアで考えた道筋が正しいかを確認できるようにする。 ○ 並べたカード(写真)をiPadに記録することで、思考の流れを振り返ることができるようにする。 ○ ロボットの動き(動画)をiPadに記録することで、学級全体で道筋を共有できるようにする。

#### (1) 目標

- 数と方向を表す言葉を組み合わせて道筋を説明したり、考えた道筋通りにロボットを動かしたりすることができる。

#### (2) 協働的な学び

協働の場面	○ 数と方向を表す言葉を組み合わせて、道筋について考え、ペアで話し合う。
見方・考え方	○ 基準点となる位置から目的地までの道筋を、数と方向を表す言葉に着目して捉える。 ○ 学んだ知識や技能を活用したり、それらを組み合わせて活用したりして、考えたり表現したりする。
言語活動	○ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ。

#### (3) 展開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導入	<p>○ 「見守り隊のみの山さんと石ばしさんに、できるだけ速く手紙を届ける道筋を考えましょう。」という問題場面に 出あう。</p> <p>できるだけ速く手紙を届ける道筋を考えるという ことは、カードの枚数はどうなるのかな。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>◎ 地図を提示して見守り隊の方の家の位置を確認することで、問題場面を理解できるようにする。</p>	授業用PC	
	どのみちすじをとればいいのか。			

展 開	<p>○ 道筋について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数と方向についての言葉を組み合わせて、自分の考えを表すようにする。</li> <li>ペアで道筋を考える。</li> </ul> <p>ペアで話し合っカードを並べ替えながらプログラムを考え、写真で撮影してiPadに記録しておく。</p> <p>→ プログラムの思考（カード） ↓ True True に入力・試行 ↓ ペアで改良点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道筋通りにロボットを動かしたら、ロボットの動きを動画で撮影してiPadに記録しておく。</li> </ul> <p>○ 道筋を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他のペアの道筋を聞いて、その道筋通りに、手でロボットを持って動かす。</li> <li>他のペアのカードやロボットの動きを見て、カードの枚数や道筋の相違点について話し合う。</li> </ul>	<p>☆数と方向を表す言葉を想起させることで、道筋を表現する際にこれらを使用することを意識させる。</p> <p>☆地図の隣に「（方向）に（数）つ」の枠を設けることで、数と方向を表す言葉を組み合わせて道筋を説明できるようにする。</p> <p>◎並べたカード（写真）をiPadに記録することで、思考の流れを確認できるようにする。</p> <p>☆ロボットの動きに合わせて、数と方向を表す言葉を組み合わせて道筋を説明することで、プログラムの改良点に気付けるようにする。</p> <p>☆道筋通りにロボットが動かないときは、学んだ知識や技能を活用しながら何度もカードを並べ替えて、ペアでプログラムについて話し合うようにする。</p> <p>◎ロボットの動き（動画）をiPadに記録することで、学級全体で道筋を共有できるようにする。</p> <p>☆ロボットを手で動かすことで、数と方向を表す言葉に着目して道筋を捉えられるようにする。</p> <p>◎iPadに記録した並べたカード（写真）とロボットの動き（動画）を学級全体に提示することで、他のペアのカードの枚数と道筋の相違点について考えられるようにする。</p> <p>◇「プログラミング話し方カード」を用いて話し合うことで、発表したペアの発言を受けて話をつなぐことができるようにする。</p>	<p>True True</p> <p>iPad</p> <p>iPad</p> <p>電子黒</p> <p>iPad</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数と方向を表す言葉を用い、道筋を言い表している。（発言）</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものごとに手順があることに気付いている。（行動観察）</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えた道筋を言い表している。（発言）</li> </ul> <p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的を意識して、最後までやり遂げようとしている。（行動観察）</li> </ul> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進む数と方向を表す言葉の意味を理解している。（発言）</li> </ul>
--------	--	---	---	--

まとめ	<p>○ 活用問題「見守り隊の3人に、できるだけ速く手紙を届ける道筋を考えましょう。」を行う。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>		<div>True True</div> <div>iPad</div>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの要素を用いると位置が表せることよさに気づいている。（行動観察）</li> </ul>
-----	--	--	--------------------------------------	---

#### (4) 板書計画

電子黒板

	投影内容
導 入	・地図
展 開	・タイマー ・カードの写真 ・ロボットの動画
まとめ	・タイマー

**めあて**  
 どのみちすじをとおれば  
 いいのだろう。

**もんだい**  
 見まもりたいのみの山さん  
 と石ばしさんに、できるだけ  
 はやく手がみをとどけるみち  
 すじをかんがえましょう。

**見とおし**  
 むき  
 （まえ・うしろ・左・右）  
 かず（〇つ）

**かんがえ**

地図

**れんしゅう**  
 見まもりたいの3人に、  
 できるだけはやく手がみを  
 とどけるみちすじをかんが  
 えましょう。

## 第2学年 国語科 学習指導案

授業者 木村 恭子・見市 将太

- 1 学年・組 第2学年1組 37名
- 2 場 所 2年1組教室
- 3 単 元 名 「おもちゃ教室をひらこう」
- 4 目 標

○ 手順に沿って話す事柄を順序立て、聞き手に分かりやすいように工夫して説明することができる。

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
言葉には、事物の内容を表したり伝えたりする働きがあることに気づいている。	<p>紹介するおもちゃを決め、説明に必要な事柄を考えている。</p> <p>分かりやすい説明の順序を考え相手の様子を見ながら、話す内容や話し方、資料を工夫して説明している。</p> <p>声の大きさや話す速さなどに注意して、はっきりとした発音で話している。</p> <p>語と語や文と文との続き方に注意しながら、カードを書いている。</p>	おもちゃの作り方や遊び方を説明することに興味を持ち、進んで説明しようとしている。

### 6 指導計画（全13時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃを作って遊んだ経験を話し合う。</li> <li>「おもちゃ教室」をひらき、手作りおもちゃの作り方や遊び方について、1年生に分かりやすく工夫して説明するという学習課題をつかむ。</li> <li>学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科で取り組んだ「おもちゃ大会」の写真を見ることで、どのようなおもちゃを作ったか思い出させることができるようにする。</li> <li>指導者が作った「山のぼりかめさん」の作り方のスライドを見ることで、1年生に分かりやすく工夫して説明するためのスライドの作り方に興味関心をもつことができるようにする。</li> <li>教材文を読むことで、「おもちゃ教室」を開くためには、どんな準備が必要かを考え、相手意識や目的意識を持って学習計画を立てることができるようにする。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介するおもちゃの情報を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科で取り組んだ「おもちゃ大会」で作ったおもちゃを思い出したり、本で調べたり、人に聞いたりすることで、手作りおもちゃについての情報（材料・道具・作り方・遊び方）を集められるようにする。</li> </ul>
2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介するおもちゃをグループで話し合って決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介するおもちゃについて、チェックシートの観点（材料の集めやすさ・作りやすさ・かかる時間・作る場所や遊ぶ場所）に沿って話し合うことで、「おもちゃ教室」で1年生に紹介するのに適した物を選ぶことができるようにする。</li> </ul>

2	4・5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもちゃ作り計画カード」を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで選んだおもちゃを実際につくってみることで、材料・道具・作り方・遊び方を確認し、「おもちゃ作り計画カード」を作成することができるようにする。</li> <li>・作り方を4つの工程として捉え、工程ごとに何をどんなふうに作るのか、1年生が上手に作ることを「作り方ポイント」は何か等を話し合って書き込むことができるようにする。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介するおもちゃの材料・道具の説明に必要な写真や説明の言葉を話し合い、スライドを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「材料カード・道具カード」をもとに、どんな写真や説明の言葉を用意しなければならないか話し合い、スライドを作ることができるようにする。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介するおもちゃの作り方の説明に必要な写真を話し合い、スライドを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「作り方カード」をもとに、どの工程の説明にどんな写真を用意しなければならないか確認できるようにする。</li> <li>・写真の選び方が工程の内容に合っているか、視覚的に有効なものであるか、スライドを見せ合いながらグループで話し合うことができるようにする。</li> </ul>
	8・9 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生が、おもちゃを上手に作るための「名人ポイント」について話し合い、スライドに書きこむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生が上手に作ることをできるようにするには、スライドの写真にどのような説明の言葉をつけ足す必要があるのかペアで話し合い、「作り方カード」の中から「名人ポイント」として大事な言葉を選ぶことができるようにする。</li> <li>・グループで「名人ポイント」の選び方、表現の仕方が適切であるかどうか話し合いアドバイスし合うことができるようにする。</li> <li>・それぞれのグループが作ったスライドが、1年生が上手に作るためのスライドになっているか確認し合うことができるようにする。</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介するおもちゃの遊び方を分かりやすく説明するための方法を話し合い準備する。</li> <li>・2つのグループでアドバイスし合い、改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもちゃ大会」などの経験をもとに、遊び方の説明をどのようにするのか、方法（スライド・動画・実際に見せる）について話し合うことができるようにする。</li> <li>・考えた方法で他のグループに説明し遊んでみることで、1年生に分かりやすいものになっているかどうか、話し合って改善することができるようにする。</li> </ul>



	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく説明するための工夫について考える。</li> <li>・グループでアドバイスし合いながら練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の2種類の説明の仕方（読むだけの説明の仕方と順序を表す言葉を使ったり表現を工夫したりしている説明の仕方）を見て比べることで、1年生に分かりやすく説明するための話し方について考えることができるようにする。</li> <li>・説明している様子をビデオで録画して見ることで、お互いにアドバイスし合ったり、自分の説明を振り返ったりできるようにする。</li> </ul>
3	12・13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃ教室を開き、1年生が上手に作ることができるように、工夫しながら説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したスライドを見せながら、これまで練習してきたことを生かして説明することで、1年生にとって分かりやすい発表になるようにする。</li> </ul>

## 7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活用機器	□電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 ■その他(大型モニター)
活用コンテンツ等	OSKYMENUE Class（発表ノート）
ICT活用のポイント	○ 指導者が作った2種類のスライドを見て比べることで、1年生がおもちゃを上手に作ることができるための「名人ポイント」について考え、話し合うことができるようにする。 ○ 作り方の工程③④を役割分担して作った後、電子黒板に提示することで、「名人ポイント」の選び方や表現の仕方が適切であるかどうかを話し合うことができるようにする。

### (1) 目標

- おもちゃの作り方について、工程や写真に合わせて、1年生が上手に作ることができる説明の言葉（「名人ポイント」）を選び、表現の仕方を考えることができる。

### (2) 協働的な学び

協働の場面	○ おもちゃの作り方③④の工程それぞれに、どんな説明の言葉（名人ポイント）が必要なのか話し合う。
見方・考え方	○ 「おもちゃの作り方カード」の「作り方ポイント」に着目することで、説明に必要な言葉を「名人ポイント」として捉える。 ○ 説明に必要な言葉を「名人ポイント」として捉えることで、写真と説明（「名人ポイント」）を関連付けて考え、工程の内容や写真に合った、適切な言葉の選び方や表現の仕方について思考する。
言語活動	○ 自分の考えを明確にし、相手の発言を受けて話をつなぐことができるようにする。

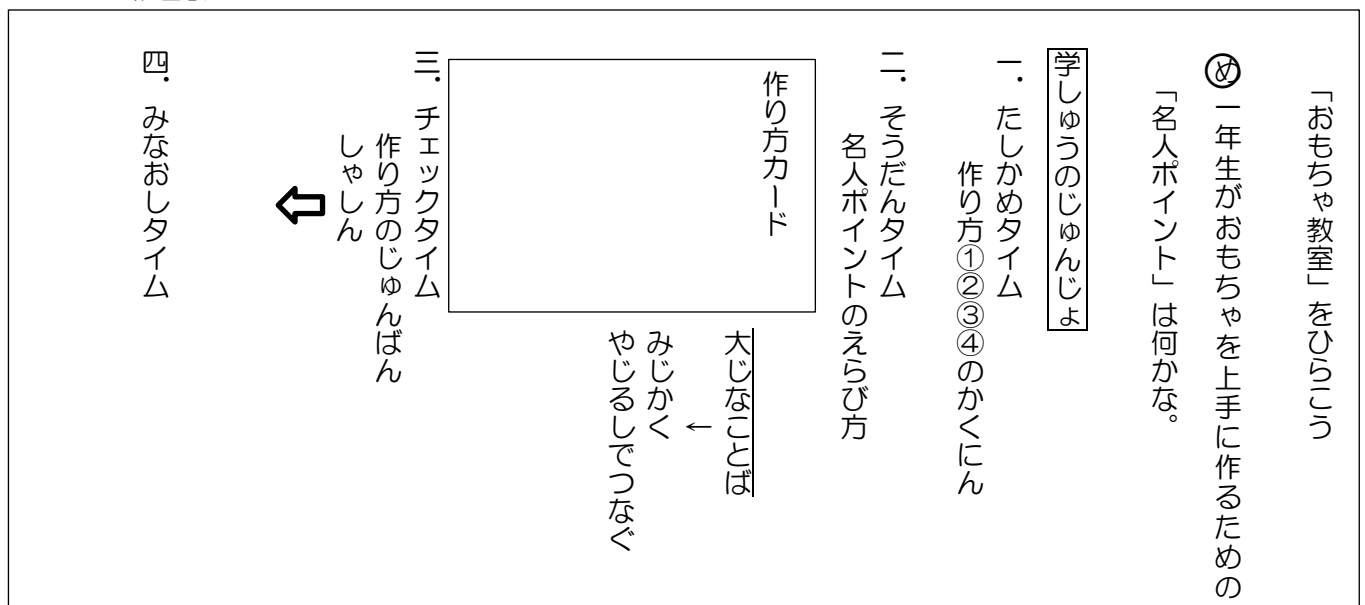
(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	○ 本時の学習課題をつかむ。	☆指導者が作った、2つの作り方の説明のスライドを電子黒板に提示し比べることで、1年生が上手につくることができる適切な「名人ポイント」の選び方と表現の仕方について関心を高めることができるようにする。	大型モニター タブレット端末	【学びに向かう力・人間性等】 ・学習課題に関心をもち、意欲的に追究している。 (行動観察)
1年生がおもちゃを上手に作るための「名人ポイント」は何だろう。				
展 開	○ 前時に作った作り方①②のスライドと本時に考える③④の工程と資料を確認する。 ・グループで確認する。	☆発表ノートのスライドを見ることで、前時に考えた「名人ポイント」と本時に考える作り方の工程③④について確認できるようにする。	タブレット端末	【思考力・判断力・表現力等】 ・作り方の4つの工程を捉えている。 (行動観察)
	○ ③④の工程に、どのような説明の言葉(「名人ポイント」)をつけ足せば、1年生がおもちゃを上手に作るができるか考え、話し合う。 ・前のペアは工程③、後ろのペアは工程④について考える ・作り方カードから「名人ポイント」を見つけて赤線を引く。	☆「作り方カード」に書きこんだ説明の中から、「名人ポイント」だと言う言葉や文に赤線を引くことで、スライドに書きこむ適切な言葉を選ぶことができるようにする。 ◇「名人ポイントは～と思います。なぜかという～」「〇〇をするとうまく作ることができるので名人ポイントにすればいいと思います。」の話型を電子黒板に提示することで、話し合い活動がスムーズに行われるようにする。 ◇児童の机に貼ってある「～さんの意見と同じで～です。」「～さんの意見と違って～です。そのわけは～」「～さんの意見と似ているけど理由が違って～。」等の基本の話型を使って話し合うことで、自分の考えを明確にし、相手の発言を受けて話をつなぐことができるようにする。	大型モニター	【思考力・判断力・表現力等】 ・それぞれの工程に合う「名人ポイント」を考え話し合っている。 (「作り方カード」) (行動観察)
	○ スライドに「名人ポイント」を書きこむ。	◎発表ノートのスライドに説明を書き込み、写真と合わせて見ることで、作り方の工程や写真に合った適切な「名人ポイント」になっているか、確かめながら作ることができるようにする。	タブレット端末	【思考力・判断力・表現力等】 ・工程や資料(写真や絵)に合った適切な説明や表現を選んでスライドを作っている。 (行動観察)

1年生がおもちゃを上手に作るための「名人ポイント」は何か考えましょう。

	○ できたスライドをグループで確かめ合い、アドバイスし合う。	☆ペアで考えた「名人ポイント」の内容や表現の仕方を、グループで確かめ合いアドバイスし合うことで、よりよいものに改善できるようにする。	タブレット端末	【思考力・判断力・表現力等】 ・相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（行動観察）
まとめ	○ 全体で交流する。  ○ 振り返りシートを書く。	◎グループごとに、作り方カードとスライドを電子黒板に提示して比べることで、1年生がおもちゃを上手に作るができる「名人ポイント」になっているか、交流することができるようにする。	大型モニター タブレット端末	【思考力・判断力・表現力等】 ・相手の話を聞き、質問したり質問に答えたりして話し合っている。 （発言・行動観察） 【学びに向かう力・人間性等】 ・個人で振り返りをしている。 （振り返りシート）

#### （4）板書計画



大型モニター	
	投影内容
導 入	指導者が作った作り方のスライド(つけ足す言葉が適切なものとそうでないものの比較)
展 開	話し合いの話型
まとめ	発表ノートのスライド

# 第3学年 音楽科 学習指導案

授業者 福村 喜久代・櫻井 里絵

1 学年・組 第3学年2組 28名

2 場 所 音楽室

3 題 材 名 「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」

4 題材の目標

- 旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり楽曲を聴いて感じ取ったりしたことを言葉で表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたりすることができる。
- 旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、思いや意図をもって歌ったり演奏したりすることができる。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。</p> <p>3拍子の拍の流れにのり、旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。</p> <p>範奏を聴いたりハ長調の楽譜を見たりして、リコーダーを演奏している。</p> <p>旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。</p> <p>曲の山を生かし、歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。</p> <p>音とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、即興的に旋律を作っている。</p>	<p>旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの違いを感じ取って、楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>旋律の特徴を聴き取り、旋律とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p>旋律の音の上がり下がりやリズムが生み出す曲想の違いに気を付けて聴いている。</p> <p>楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取り、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いている。</p>	<p>旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>旋律の特徴を感じ取り、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p>

6 指導計画（全10時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1・2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あの雲のように」：歌詞の内容や曲想をつかみ、3拍子の拍の流れにのって歌う。</li> <li>・旋律の音の上がり下がりを感じ取り、いろいろな声の出し方を試しながら、曲想にあった声で歌えるように歌い方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大空に浮かぶ雲を見上げて夢をふくらませる心情を表す歌詞を可視化し、3拍子のゆるやかな順次進行の旋律から歌い方を工夫できるようにする。</li> </ul>
2	3・4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「メヌエット」：旋律の特徴や曲想の変化を感じ取り、楽曲の構成に気付く。</li> <li>・音楽を聴いて感じ取ったことを言葉などで表したり、図形楽譜を見て旋律の音の上がり下がりを確認したりする。</li> <li>・バイオリンの音色の美しさを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、楽曲全体を味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオリンで演奏される主な旋律2種類について図形楽譜を用いて対比して提示することで、なめらかな音の動きを美しく奏でる旋律と軽やかで弾むようなリズムの旋律と、それぞれの特徴をとらえやすくする。</li> </ul>

3	5 ・ 6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「山のポルカ」：旋律の特徴の違いや楽曲の構成を感じ取って、旋律を演奏する。</li> <li>・リコーダーの新しい運指を覚え、音色やタンギング、フレーズに気を付けながら演奏する。</li> <li>・旋律の特徴を生かして演奏の仕方を工夫し、曲のまとまりを感じ取りながら、演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を旋律の特徴に合わせて色分けして示すことで、8分音符中心の軽やかなリズムをもつ旋律と4分音符と2分音符によるなめらかな旋律の対比をとらえやすくする。</li> </ul>
4	8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふじ山」：歌詞の表す情景を思い浮かべながら、のびのびとした声で歌う。</li> <li>・階名唱したり、旋律の音の上がり下がり気をつけて歌詞唱したりしながら曲の山を感じ取り、歌い方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜に旋律のまとまりや抑揚、曲の山を意識した曲線を表現することで、上行、下行する旋律の特徴を富士山の姿に重ね合わせ、強弱を工夫して歌うことができるようにする。</li> </ul>
5	10 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK for School「おんがくブラボー」を視聴する。</li> <li>・ソラシを使って旋律を考え、小節の組み合わせ方と最終小節の旋律を話し合う。</li> <li>・出来上がった旋律をグループで練習し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項のリズム楽譜を提示することで、即興的な旋律づくりをしやすくする。</li> <li>・NHK for School「おんがくブラボー」を視聴することで、旋律づくりのポイントを理解できるようにする。</li> </ul>

## 7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他(授業用PC)
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> NHK for School「おんがくブラボー」(第9回「せんりつづくり」はこわくない！) <input type="checkbox"/> SKY MENU Class (発表ノート)
ICT活用のポイント	<input type="checkbox"/> 番組を視聴することで、曲づくりの3つのポイントを知ることができるようにする。 <input type="checkbox"/> 作った旋律をタブレットに入力することで、音や小節の組み換えを容易にすることができるようにする。 <input type="checkbox"/> 小節の入れ替えや音の変更などが話し合いの中で簡単に行うことができるようにする。

### (1) 目標

- 音とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って表現の仕方を工夫し、まとまりのある旋律を即興的に作ることができる。

### (2) 協働的な学び

協働の場面	○ 「ソラシ」の3音を使って旋律をつなぎ、まとまりのある音楽をつくる。
見方・考え方	<input type="checkbox"/> 音とリズムのかかわりや曲の山に着目して旋律を捉える。 <input type="checkbox"/> 小節のつながりや旋律の盛り上がりを工夫し、まとまりのある音楽について思考する。
言語活動	○ 曲づくりの視点に沿ったまとまりのある音楽になっているか、話し合う。

(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4分の4拍子を確認しながら、リズム打ちをする。</li> <li>○ NHK for School 「おんがくブラボー」を視聴する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆既習のリズムを確認することで、4分の4拍子を確認する。</li> <li>◎番組を視聴することで、曲づくりの3つのポイントを知ることができるようにする。</li> </ul>	<div>電子黒板</div> <div>授業用PC</div>	
展 開	「ソラシ」の音で曲を作ろう。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ソラシ」の音を用いて、1小節分の旋律を1人で考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーを用いて考える。</li> <li>・タブレットに入力する。</li> </ul> </li> <li>○ 旋律づくりの3つのポイントを全体で確認し、話し合いのキーワードを知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・しりとり…演奏順を変える。小節をつなぐときは同じ音でつなぐ。</li> <li>・山…旋律の盛り上がり（曲の山）をつくる。</li> <li>・最後は「ソ」…曲の最後は低い音で終わる。</li> </ul> </li> <li>○ 小節の組み合わせ方と最終小節の旋律をグループで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎作った旋律をタブレットに入力することで、音や小節の組み換えを容易にすることができるようにする。</li> <li>◇曲作りの視点を板書に掲示し、話し合いの根拠にできるようにする。</li> </ul>	<div>タブレット端末</div> <div>電子黒板</div> <div>授業用PC</div>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや意図を持ち、旋律づくりに取り組んでいる。</li> </ul> <p>（電子ワークシート、行動観察）</p>
	<div>「しりとり」できているかな。曲の「山」はどこかな。最後の音はどうなっているかな。</div>		<div>タブレット端末</div>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音とリズムのかかわりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、即興的に旋律を作っている。</li> </ul> <p>（電子ワークシート、行動観察）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リコーダーで練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が作った旋律は1人で、最終小節は全員で演奏する。</li> </ul> </li> <li>○ 発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲した楽譜にそって、リコーダーで演奏する。</li> <li>・3つのポイントに気を付けて聴く。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆「しりとり」や曲の「山」、最後の音について、楽譜を見ながら確認できるように促す。</li> <li>☆「しりとり」や曲の「山」、最後の音について意識して発表を聴くように再度促す。</li> </ul>		

ま と め	○ 本時の学習を振り返る。 ・ワークシートに記入する。 ・感想を発表する。	☆3つのポイントをふまえた曲作りができたのか、学習を振り返るように促す。	【思考力・判断力・表現力等】 ・旋律やリズムの特徴を聴き取りそれらの違いを感じ取って、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (ワークシート)
-------------	---	--------------------------------------	--

(4) 板書計画

めあて 「ソラシ」の音で曲を作ろう。

電子黒板

	投影内容
導 入	・ NHK for School 「おんがくブラボー」
展 開	・ 学習の流れ ・ タブレットの操作画面
まとめ	

3つのポイント

1 小せつをつなぐときは、同じ音を使う。

2 曲のもり上がり（山）をつくる。

3 さい後の音は「ソ」でおわる。

【学習の流れ】

[illegible]



# 第4学年 算数科 学習指導案

授業者 山本 淳子・木村 拓也

1 学年・組 第4学年1組 35名

2 場 所 4年1組教室

3 単 元 名 「およその数の表し方を考えよう」

4 目 標

○ 概数について理解し、目的に応じて、概数を用いたり四則計算の見積もりをしたりすることができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>四捨五入して数を概数にすることができる。</p> <p>目的に応じて、和、差、積、商を概数で見積もることができる。</p> <p>概数が用いられる場合や四捨五入について、理解している。</p> <p>加法、減法、乗法、除法の計算の結果のおよその大きさをとらえるなど、数についての豊かな感覚をもっている。</p>	<p>目的に応じて、計算の結果のおよその大きさを判断している。</p>	<p>概数を用いると物事の判断や処理が容易になるなどのよさに気付いている。</p> <p>目的に応じて計算の結果を見積もり、生活や学習の場面で用いようとしている。</p>

6 指導計画（全8時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント		
			イルカコース	ペンギンコース	クジラコース
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の人口21034人、32756人、38412人の、およその数の表し方について考える。</li> <li>「がい数」の意味と、「約」を用いて表すことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書を提示することで、概数に対する興味や関心を高めるようにする。</li> <li>数直線に表すことで、何万に近いかを視覚的に判断し、1つ下の位に着目し、自分の考えの根拠を説明できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書を提示することで、概数に対する興味や関心を高めるようにする。</li> <li>数直線に表すことで、何万に近いかを視覚的に判断し、1つ下の位に着目することに気付くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書を提示することで、概数に対する興味や関心を高めるようにする。</li> <li>数直線で視覚的、具体的に、何万に近いかを確認することで、1つ下の位に着目することに気付くようにする。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の小学生の人数1263人と1825人を概数で約何千人と表す仕方を考える。</li> <li>「四捨五入」や「切り捨て」、「切り上げ」の意味を知り、その方法をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数直線を活用することで、数の仕組みに着目して四捨五入の仕方を見つけ出し、その有用性について感じることができるようにする。</li> <li>何の位の数字に目をつけて四捨五入するのかに着目させることで、四捨五入の仕方を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数直線に表すことで、数の仕組みに着目して四捨五入の仕方を見つけ出せるようにする。</li> <li>何の位の数字に目をつけて四捨五入するのかに着目させることで、四捨五入の仕方を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数直線で視覚的、具体的に確認することで、数の仕組みに着目して四捨五入の仕方を見つけ出せるようにする。</li> <li>何の位の数字に目をつけて四捨五入するのかに着目させることで、四捨五入の仕方を理解できるようにする。</li> </ul>

1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館にある本と児童書の数に四捨五入して、一万の位までの概数にする仕方を考える。</li> <li>・四捨五入して、一万の位までの概数にする場合は、何の位に着目すればよいかまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線等を活用することで、自分の考えの根拠を説明することができるようにする。</li> <li>・「〇の位までの概数にする」には、1つ下の位に目をつければよいことに着目することで、その処理の仕方が身につくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇の位までの概数にする」には、1つ下の位に目をつければよいことに着目することで、その処理の仕方が身につくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線等で視覚的、具体的に確認することで「〇の位までの概数にする」には、1つ下の位に目をつければよいことに気づき、その処理の仕方が身につくようにする。</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館にある本と児童書の数に四捨五入して、上から1桁までの概数にする仕方を考える。</li> <li>・四捨五入して、上から1桁までの概数にする場合は、何の位に着目すればよいかまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇の位までの概数にする」と比較することで、「上から1桁の概数にする」との違いに気付くようにする。</li> <li>・何の位で四捨五入すればよいのかに着目することで、その処理の仕方を身につけることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇の位までの概数にする」と比較し、「上から1桁の概数にする」には、何の位で四捨五入すればよいのかに着目することで、その処理の仕方を身につけることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇の位までの概数にする」と比較し、「上から1桁の概数にする」には、何の位で四捨五入すればよいのかに着目することで、その処理の仕方を理解する。</li> <li>・概数にする場合の表現を整理することで、その処理の仕方を身につけることができるようにする。</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四捨五入して約130kmになるのは、何kmから何kmまでの間になるか考える。</li> <li>・四捨五入して十の位までの概数にしたとき、130になる整数の範囲をまとめる。</li> <li>・数の範囲を表す言葉として、「以上」「未満」「以下」の意味を知る。</li> <li>・「算数のおはなし」を読み、身の回りで使われている切り上げの例を知り、概数の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何の位で四捨五入して約130kmになったのかに着目することで、四捨五入する前のもとの数と概数を関係づけて考えることができるようにする。</li> <li>・数直線に着目することで、概数のもとの数の範囲は、概数を中心にした数のまとまりであることに気付くようにする。</li> </ul>		
	6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK for Schoolの前半を視聴し、四捨五入して約20000になる整数の範囲を求める。</li> <li>・四捨五入する位によって約20000になる整数の範囲が変わることを知る。</li> <li>・NHK for Schoolの後半を視聴して、もとの数の範囲についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何の位で四捨五入して約20000になったのかに着目することで、四捨五入する前のもとの数と概数を関係づけて考えることができるようにする。</li> <li>・数直線に着目することで、概数のもとの数の範囲は、概数を中心にした数のまとまりであることに気付くようにする</li> <li>・NHK for Schoolを視聴することで、四捨五入する位によって、概数にする前の、もとの数の範囲が変わることを捉えることができるようにする。</li> </ul>		

2	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的に応じた代金の見当のつけ方を考える。</li> <li>・ 目的に応じて、概数にする方法を選ぶとよいことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル教科書を提示することで、買い物への関心を高めるようにする。</li> <li>・ 買い物の場面を想定することで、目的や条件に合わせて概数を活用することができるようにする。</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>620 \times 39</math> を概数で見積もる方法を考える。</li> <li>・ 乗法の場合、上から1桁の概数で見積もるとよいことを知り、積を概数で求める。</li> <li>・ <math>38220 \div 39</math> を概数で見積もる方法を考える。</li> <li>・ 除法の場合も上から1桁の概数で見積もるとよいことを知り、商を概数で求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル教科書を提示することで、問題場面への関心を高めるようにする。</li> <li>・ 交通費の見積もりをする場面を想定することで、目的や条件に応じて見積もることのよさを感じることができるようにする。</li> </ul>

## 7 本時の学習

### 《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input checked="" type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他(大型モニター)
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> NHK for School「さんすう刑事ゼロ」 (第12回「四捨五入」の心理トリックに気をつけろ〜がい数〜) <input type="checkbox"/> SKYMENU Class(発表ノート)
ICT活用のポイント	<input type="checkbox"/> NHK for Schoolの番組を視聴することで、四捨五入する位によって、概数にする前の、もとの数の範囲が変わることを捉えることができるようにする。

### (1) 目 標

- 四捨五入する位によって、概数にする前の、もとの数の範囲が変わることを理解することができる。
- 「以上」、「未満」、「以下」を使って、数の範囲を表すことができる。

### (2) 協働的な学び

協働の場面	○ 四捨五入して概数にする前の、もとの数の範囲を話し合う。
見方・考え方	○ 概数のもとの数の範囲は、概数を中心にした数のまとまりであることを数直線に着目して捉える。 ○ 四捨五入する前の数と概数を関係付けてもとの数の範囲について思考する。
言語活動	○ もとの数の範囲について理由や根拠を挙げながら筋道立てて話し合う。

(3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	○ NHK for School「さんすう刑事ゼロ」(第12回「四捨五入」の心理トリックに気をつけろ〜がい数〜)の前半部分を視聴し、課題をつかむ。	◎番組内のポイントとなるシーンを提示することで、問題場面を整理する。	大型モニター 授業用PC	【学びに向かう力・人間性等】 ・学習課題に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。 (行動観察)
なぜ、原こう料にちがいがあろうのだろう。				
展 開	<p>○ 見通しをもつ。 ・19800、15000をそれぞれ四捨五入して20000になるか確かめる。</p> <p>○ 解決する。 ・千の位を四捨五入する場合のものと数の範囲を考えるペアと百の位を四捨五入する場合のものと数の範囲を考えるペアに分かれ、タブレットにまとめる。 ペア2組4人班 計9班</p> <p>○ 自分の考えを友だちに伝える。 ・グループで伝え合う。</p> <p>○ もとの数の範囲について全体で話し合う。</p> <div>四捨五入しておよそ20000になる数の範囲がちがうのは、なぜだろう。</div>	<p>☆何の位で四捨五入して20000になったのかに着目させ、四捨五入する前のもとの数と概数を関係づける</p> <p>◎発表ノートに考えを数直線等で書き表すことで、考えを整理することができるようにする。</p> <p>◇数直線等を使って、それぞれの考えの根拠を説明することで、友だちに自分の考えが伝わるようにする。</p> <p>☆数直線に着目させ、概数のもとの数の範囲は、概数を中心にした数のまとまりであることに気付くようにする。</p>	タブレット端末 大型モニター	<p>【思考力・判断力・表現力等】 ・四捨五入して一つの概数になる範囲の数を考えている。 (ノート)</p> <p>【知識・技能】 ・以上、未満、以下を使って概数の範囲を表すことができる。(ノート・発言)</p>
ま と め	○ NHK for School「さんすう刑事ゼロ」(第12回「四捨五入」の心理トリックに気をつけろ〜がい数〜)の後半部分を視聴し、もとの数の範囲をまとめる。	◎四捨五入する位によって、概数にする前の、もとの数の範囲が変わることを捉えることができるようにする。	大型モニター 授業用PC	【思考力・判断力・表現力等】 ・四捨五入する位によって範囲が変わることを理解している。 (発表・ノート)

(4) 板書計画

大型モニター	
	投影内容
導 入	・NHK for School（前半）
展 開	・児童の発表ノート
まとめ	・NHK for School（後半）

めあて

なぜ、原こう料にちがいがあろうのだろう。

問題

四捨五入して  
 1 ページ 2万円

写真

見通し

$1 \overline{) 5000}$   
 $19 \overline{) 800}$

考え

千の位

15000      20000      25000

百の位

19500      20000      20500

まとめ

四捨五入する位によって、概数にする前のもとの数の範囲が変わる。

[illegible]

## 第5学年 社会科学学習指導案

授業者 山田 真衣・二宮 朗子

- 1 学年・組 第5学年1組 32名  
 2 場 所 5年1組教室  
 3 単 元 名 「自動車づくりにはげむ人々」  
 4 目 標

○ 地図や地球儀、統計資料などを活用して自動車の生産や働く人々の様子について調べ、自動車工業に従事している人々が、消費者の多様な需要や環境に配慮しながら優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解することができるようにする。

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>様々な工業製品が国民生活を支えていることを理解している。</p> <p>我が国の各種の工業生産や工業地域の分布などを理解している。</p> <p>工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支えている貿易や運輸などの働きを理解している。</p> <p>我が国の工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。</p> <p>地図や地球儀、動画、統計などの資料を活用して、我が国の工業生産の様子や工業製品について必要な情報を集め、読み取ることができる。</p> <p>調べたことをノートや発表ノートなどにまとめることができる。</p>	<p>我が国の工業生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。</p> <p>工業生産の様子と国民生活とを関連付けて、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現している。</p>	<p>我が国の工業生産の様子に関心をもち、意欲的に調べている。</p> <p>国民生活を支える我が国の工業生産の発展を考えようとしている。</p>

### 6 指導計画（全15時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1	・「未来広告ジャパン！」を視聴し、わかったこと、疑問に思ったこと、調べてみたいと思ったことから、学習計画を立てる。	・わかったことと疑問に思ったこと、調べてみたいと思ったことをふせんに書き、学習の課題を持てるようにする。
	2	・自動車工場の配置の工夫に気付くとともに立地条件について調べ、考えを話し合う。	・教科書から調べることで、配置の工夫と立地条件についての理解を深め、必要な情報を収集できるようにする。

2	3・4・5	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車ができるまでの工程や働く人たちの作業の様子を調べ、生産にこめられた工夫や努力について考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書、NHK for School、web サイトを活用して調べることで、工程と働いている人たちの工夫や努力について理解を深め、必要な情報を収集できるようにする。 「日産自動車九州株式会社 バーチャル工場見学」 「Honda 工場見学 クルマができるまで」 「TOYOTA クルマこどもサイト」 「JAMA 小学生のためのよくわかる自動車百科」</li> <li>発表ノートに調べた資料を貼り付け、マーキングしたり文字を書いたりして、まとめノートを作る。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車工場では、人々が働きやすい仕組みを整えるとともに、環境に配慮しながら自動車を生産していることを調べ、その理由を考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書から調べることで、環境に配慮している理由について理解できるようにする。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連工場について調べ、立地条件や作業の様子などから、関連工場の生産や出荷における工夫や努力について考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書、NHK for School を活用して調べることで、関連工場働く人たちの生産や出荷の工夫や努力について理解を深め、必要な情報を収集できるようにする。</li> <li>発表ノートに調べた資料を貼り付け、マーキングしたり文字を書いたりして、まとめノートを作る。</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>注文通りに部品を納めるための仕組みや関連工場働く人の工夫・努力について調べ、自動車づくりを支える関連工場のはたらきや、自動車工場と関連工場との結びつきについて考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書、NHK for School を活用して調べることで、関連工場働く人たちの工夫や努力について理解を深め、必要な情報を収集できるようにする。</li> <li>発表ノートに調べた資料を貼り付け、マーキングしたり文字を書いたりして、まとめノートを作る。</li> </ul>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場で生産された自動車の輸送について関心を持ち、運搬船やキャリアカーに積み込む仕事の様子や働く人たちの工夫や努力について考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書、NHK for School を活用して調べることで、輸送や運搬に携わる人たちの工夫や努力について理解を深め、必要な情報を収集できるようにする。</li> <li>発表ノートに調べた資料を貼り付け、マーキングしたり文字を書いたりして、まとめノートを作る。</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の輸送の経路や方法を調べ、それぞれの輸送手段の長所を考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を活用して調べることで、輸送の方法について理解を深める。</li> </ul>
	11・12	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車に乗る人の願いが反映された自動車づくりや、環境にやさしい自動車づくりについて調べ、これからの自動車づくりに大切なことについて考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NHK for School、web サイトを活用して調べることで、人に優しい自動車づくりについて理解を深め、必要な情報を収集できるようにする。 「TOYOTA クルマこどもサイト」</li> <li>発表ノートに調べた資料を貼り付け、マーキングしたり文字を書いたりして、まとめノートを作る。</li> </ul>



3	13 ・ 14 ・ 15 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の人たちに自動車を買ってもらうために、これまで学習してきた日本の自動車づくりの魅力を考え、話し合う。</li> <li>働いている人たちの工夫や努力と自動車工業の発展について考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アピールする内容によってグループを分け、これまで作ってきたまとめノートを振り返りながら、人々の工夫や努力に着目して日本の自動車づくりの魅力を考える。</li> <li>web サイトから調べ、情報を収集する。 「NHK for School」 「日産自動車九州株式会社 バーチャル工場見学」 「Honda 工場見学 クルマができるまで」 「TOYOTA クルマこどもサイト」 「JAMA 小学生のためのよくわかる自動車百科」</li> <li>グループごとに、グループワーク機能を活用して資料を集め、取捨選択する。</li> <li>アピールする内容を話し合い、資料を提示しながら自動車づくりの魅力を伝える。</li> </ul>
---	----------------------------------	---	--

## 7 本時の学習

《本時の ICT の活用について》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 ■その他(授業用 PC)
活用コンテンツ等	○ SKYMENU Class (発表ノート)
ICT 活用のポイント	○ 前時までに集めた資料を活用し、日本の自動車づくりの魅力について考え、話し合う。 ○ 魅力を伝える時に発表ノートで資料を提示し、全体で共有する。

### (1) 目標

- 自動車工業に従事している人々が、消費者の多様な需要や環境に配慮しながら優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解することができる。

### (2) 協働的な学び

協働の場面	○ グループで話し合い、アピールする内容を考えることができる。
見方・考え方	○ 自動車工業に携わっている人々の工夫や努力に着目し、日本の自動車づくりの魅力を考える。 ○ 既習事項を応用し、自動車工業に携わっている人々が、消費者の多様な需要や環境に配慮しながら優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることについて思考する。
言語活動	○ 資料を活用して話し合うことができる。 ○ 互いの立場や意図を明確にして話すことができる。

(3) 展 開 (本時 2/2時)

	主な学習活動	◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	○ 自動車販売店の方の話を聞き、気づいたことを発表する。	◎自動車販売店の方の話をプロジェクターで提示することで、児童から出た意見を全体で共有できるようにする。 ◇資料から読み取ったことを、「〇〇から、～ということがわかる」など、根拠を明確にして話すことができる。	電子黒板 授業用PC	【学びに向かう力・人間性等】 ・グラフを見て、学習課題に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 (行動観察)
展 開	あなたは、自動車会社の社員です。来年は東京オリンピックが日本で開催され、日本を訪れる外国人がさらに増えます。外国でもっと日本の自動車に興味を持ってもらえるように、外国人向けに日本の自動車の魅力を伝えるイベントを開くことになりました。日本の自動車づくりの魅力をアピールしましょう。			
	○ 日本の自動車づくりの魅力について考え、自分がアピールしたいことをノートに書く。  ○ アピールする内容ごとにグループ分けをし、必要な情報を収集する。 ・品質のよさ、丁寧さ ・ジャストインタイム方式 ・ユニバーサルデザイン ・安全運転への配慮 ・快適な運転への配慮 ・環境への配慮	◎「まとめノート」を振り返りながら、日本の自動車づくりの魅力について、考えられるようにする。  ◎「まとめノート」とwebサイトを活用することで、必要な情報を収集することができるようにする。 「NHK for School」 「日産自動車九州株式会社 バーチャル工場見学」 「Honda 工場見学 クルマができるまで」 「TOYOTA クルマこどもサイト」 「JAMA 小学生のためのよくわかる自動車百科」 ◎グループワーク機能を活用することで、班ごとに資料を集め、話し合いながら取捨選択することができるようにする。 ☆自動車づくりに携わる人々が、様々な工程の中で工夫・努力していたことに着目して考えられるようにする。	タブレット端末	【学びに向かう力・人間性等】 ・学習課題に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 (行動観察)

展 開	日本の自動車づくりには、どんな魅力があるのだろう。		
	○ 日本の自動車づくりの魅力について、グループごとにアピールする内容を話し合う。	◎これまでの学習で発表ノートにまとめた「まとめノート」や資料から、どのような工夫や努力があるか考えられるようにする。 ◎アピールする内容に合う資料を選ぶことで、わかりやすく伝えられるようにする。 ☆全体で視点を確認し、工夫や努力に着目して考えられるようにする。 ◇伝えたい内容とその理由や根拠を明確にして話し合うことができるようにする。	電子黒板 授業用PC タブレット端末 【知識・技能】 ・今まで集めた資料を活用して、必要な情報を集めることができる。（発表ノート） 【思考力・判断力・表現力等】 ・働いている人の工夫や努力と工業生産の発展を関連付けて考えている。（話し合い）
	○ 考えたアピールを発表する。	◎アピールする内容を話し合い、資料を提示しながら自動車づくりの魅力を伝える。 ☆お互いに伝え合うことで、日本の自動車づくりの魅力が理解できるようにする。 ◇「〇〇が日本の自動車づくりの魅力だと思います。その理由は～や～だからです。」など、自分たちの立場を明確にして話すことができる。	
ま と め	この魅力に、共通している工夫や努力は何でしょう。		
	○ グループで話し合い、発表する。	☆日本の自動車は、乗る人だけでなく、そこに暮らしている人のことも考えて工夫して作られていることを捉える。	
ま と め	○ 日本の自動車工業についてまとめる。 ・乗る人のことだけでなく、周りにいる人のことも考えて、人にやさしい自動車づくりが、日本の自動車づくりの魅力だ。		

(4) 板書計画

めあて 日本の自動車づくりには、どんな魅力があるのだろう。		
電子黒板	調べる	この魅力に共通している工夫や努力は何だろう。
	・品質の良いていねいな自動車づくり	・乗るのことを考えている。（安全、人にやさしい、ていねい、正確）
	・注文や時間に正確な自動車づくり	・周りにいる人のことも考えている。（安全、環境）
	・安全・安心な自動車づくり	
	・人にやさしい自動車づくり	
まとめ	・環境にやさしい自動車づくり	
	まとめ 乗る人のことだけでなく、周りにいる人のことも考えて、人にやさしい自動車づくりが、日本の自動車づくりの魅力だ。	

# 第6学年 算数科（プログラミング） 学習指導案

授業者 別所 英文

1 学年・組 第6学年1組 32名

2 場 所 6年1組教室

3 単 元 名 「比例と反比例」

4 目 標

- 伴って変わる2つの数量の関係を考察することを通して、比例や反比例の関係について理解し、関数の考えを伸ばすことができる。
- 学習した内容を活用して記号を組み合わせ、グラフに表す方法を考えることができる。
- 自分や他者の意見を尊重し、協働して作業に取り組み、課題を解決するために、試行錯誤を通してやり遂げようとすることができる。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
算数科	<p>比例の関係について理解している。</p> <p>反比例の関係について理解している。</p> <p>比例の関係にある2つの数量の関係を、式、表、グラフに表すことができる。</p>	<p>比例の関係という観点から、伴って変わる2つの数量の関係について考えている。</p> <p>式、表、グラフを用いて、比例の関係の特徴を調べている。</p>	<p>身の回りの伴って変わる2つの数量の中から比例の関係にあるものを見付けようとしている。</p> <p>比例・反比例の関係を用いて、問題を解決しようとしている。</p>
プログラミング	<p>身近な生活の中でコンピュータが活用されている場面を自ら見出し、その仕組みを考える。</p>	<p>目的や意図に合わせて筋道立てて見通しを立てる。（論理的に考えを進める）</p> <p>大きな動きはいくつかの小さな動きに分けられることに気づき、大きな動きを小さな動きに適切に分ける。（動きに分ける）</p> <p>目的や意図に合わせ、必要な要素を適切に見出す。（記号にする）</p> <p>見出したものごとの類似性や関係性を適用し、問題解決に利用する。（一連の活動にする）</p> <p>意図した活動を実現するため、複数の手順を適切に組み合わせてより効果的な手順を創る。（組み合わせる）</p> <p>目的や意図したことに対しての手順を考察し、問題がある場合は理由を考えたり改善方法を考えたりし、さらによりよい方法を追求する。（振り返る）</p>	<p>課題を達成するために、試行錯誤して最後まで計画的にやり遂げようとする態度を養う。</p> <p>身近な問題の発見や解決のためにコンピュータをどのように活用できるかを考えようとする態度を養う。</p>

（出典）：プログラミングで育成する資質・能力の評価規準（株）ベネッセコーポレーション）

（<http://benes.se/keyc>）（2019年10月9日にアクセス）

## 6 指導計画（全17時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	1 2 3	・ $y$ が $x$ に比例するとき、 $y=決まった数 \times x$ と表せることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数学習で行う。</li> <li>・デジタル教科書を活用することで、2つの数量の変化やグラフのかき方などについて、視覚的にとらえることができるようにする。</li> <li>・タブレット端末を活用し、話し合いを活発に行うことができるようにする。（習熟度に合わせて）</li> <li>・Excelを活用し、デジタルでグラフを表すことができるようにする。（習熟度に合わせて）</li> </ul>
2	4	・比例の性質について理解する。	
3	5 6	・比例の関係をグラフに表して考察し、比例のグラフの特徴を理解する。	
	7	・比例のグラフを考察することを通して、比例のグラフについて理解を深める。	
4	8 9	・比例の性質を活用し、問題を解決する。	
	10	・学習内容を適用して問題を解決する。	
5	11	・反比例の意味について理解する。	
	12 13	・ $y$ が $x$ に反比例するとき、 $y=決まった数 \div x$ と表せることを理解する。	
	14	・反比例の性質について理解する。	
	15	・反比例の関係をグラフに表して考察し、反比例のグラフの特徴を理解する。	
発展	16 (本時)	・コンピュータで比例・反比例のグラフをかく。(プログラミング)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの数量の関係に着目させ、点の打ち方を考えさせる。</li> <li>・<math>y=決まった数 \times x</math> の式をどのように活用すればよいかについて話し合わせる。</li> <li>・ブロックをどのように活用すればよいかをペアやグループ、全体で話し合い、試行錯誤を繰り返しながら課題解決を目指すことができるようにする。</li> </ul>
まとめ	17	・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・やるKeyを活用することで、学習内容を自分のペースに合わせて自力解決できるようにする。

## 7 展 開

《本時のICTの活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 □指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 ■その他（ 授業用PC ）

活用コンテンツ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Scratch Desktop</li> <li>○ SKYMENU Class（発表ノート）</li> </ul>
ICT 活用・プログラミングのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル教科書上でグラフをかく様子を見せることで、プログラミングすればコンピュータでグラフをかけることをつかむことができるようにする。</li> <li>○ デジタル教科書のグラフの点の位置をマーキングすることで、比例の性質を想起させやすくする。</li> <li>○ Scratch のソフトウェア（大日本図書 「たのしい算数ウェブ」参照）を活用し、グラフの x 座標に 1 マスずつ点を打つプログラムを提示することで、活動のイメージを持たせやすくする。</li> <li>○ 反復を利用することで、コーディングが簡単になることを想起させる。</li> <li>○ 発表ノートを活用することで、考えをフローチャートに表すことができるようにする。</li> <li>○ ブロックをどのように活用すればよいかをペアやグループ、全体で話し合い、試行錯誤を繰り返しながら課題解決を目指すことができるようにする。</li> <li>○ 電子黒板を活用し、自分たちが考えたプログラムを報告することで、互いのペアの考え方を知ることができるようにする。</li> <li>○ 比例の式を活用したプログラムから、反比例も式を活用できることに気づくことができるようにする。</li> </ul>

### (1) 目 標

- コンピュータで比例の関係を表すグラフをかくために、ペアやグループで協力して比例の性質を活用したプログラムを考えることができる。

### (2) 協働的な学び

協働の場面	○ Scratch を使って比例の関係を表すグラフのプログラムを考える。
見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2 つの数量の関係に着目して、比例の性質を捉える。</li> <li>○ 比例の性質を応用して、グラフに点を打つ記号の組み合わせについて思考する。</li> </ul>
言語活動	○ 意図を明確にしながら話し合い、考えを広げる。

### (3) 展 開

	主な学習活動	◎ICT活用・プログラミングのポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント	ICT	評価の観点
導 入	○ 既習の比例の問題を振り返り、比例の関係はグラフに表すことができたことを確認するとともに、学習課題をつかむ。	◎デジタル教科書上でグラフをかく様子を見せることで、プログラミングすればコンピュータでグラフをかけることをつかむことができるようにする。	電子黒板 授業用 PC	【知識・技能】 ・身近な生活の中でコンピュータが活用されている場面を自ら見出し、その仕組みを考える。（発言）
	コンピュータで比例の関係を表すグラフをかくには、どのようなプログラムにすればよいのだろう。			
	○ 問題に出あう。			
	底辺が 2cm の平行四辺形の、面積 $y \text{ cm}^2$ が高さ $x \text{ cm}$ に比例する関係をグラフに表しましょう。			

展 開	<p>○ 表とグラフから、比例の性質を再確認する。 (<math>x</math>が1増えると)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>y</math>は2増える。</li> <li>・ <math>y=2 \times x</math></li> </ul> <p>○ <math>x</math>座標の点の打ち方を知る。</p>	<p>◎デジタル教科書のグラフの点の位置をマーキングすることで、比例の性質を想起させやすくする。 ☆2つの数量の関係に着目させ、点の打ち方を考えさせる。</p> <p>◎Scratch のソフトウェア（大日本図書「たのしい算数ウェブ」参照）を活用し、グラフの<math>x</math>座標に1マスずつ点を打つプログラムを提示することで、活動のイメージを持たせやすくする。</p> <p>◎反復を利用することで、コーディングが簡単になることを想起させる。</p>	<p>電子黒板 授業用PC</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比例の関係にある2つの数量の関係を、式、表、グラフに表すことができる。（発言） [思考・判断・表現力等]</li> <li>・ 目的や意図に合わせて筋道立てて見通しを立てる。 （発表ノート）</li> <li>・ 大きな動きはいくつかの小さな動きに分けられることに気づき、大きな動きを小さな動きに適切に分ける。 （発表ノート）</li> <li>・ 目的や意図に合わせて、必要な要素を適切に見出す。 （Scratch）</li> <li>・ 見出したものごとの類似性や関係性を適用し、問題解決に利用する。 （Scratch）</li> <li>・ 意図した活動を実現するため、複数の手順を適切に組み合わせてより効果的な手順を創る。 （Scratch）</li> <li>・ 目的や意図したことに対しての手順を考察し、問題がある場合は理由を考えたり改善方法を考えたりし、さらによい方法を追求すること。 （発表ノート・Scratch） [学びに向かう力・人間性等]</li> <li>・ 課題を達成するために、試行錯誤して最後まで計画的にやり遂げようとする態度を養う。（行動）</li> </ul>
	<p>比例の性質を使ったプログラムにするには、記号をどのように組み合わせたらいいのだろう。</p> <p>○ ペアで比例の関係を表すグラフのプログラムを考え、試行する。</p> <p>→ プログラムを考える。 ↓ ・ タブレットで入力・試行 ↓ ・ うまくいかなかった理由を考える。</p> <p>○ うまくできたペアのプログラムを考える。 (<math>x</math>が1増えると)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>y</math>は2増える。</li> <li>・ <math>y=2 \times x</math></li> </ul> <p>↓ 考えられていない場合は、全体で考える。</p>	<p>◎発表ノートを活用することで、考えをフローチャートに表すことができるようにする。</p> <p>◎ブロックをどのように活用すればよいかをペアやグループで話し合い、試行錯誤を繰り返しながら課題解決を目指すことができるようにする。</p> <p>◇自分の考えを伝える際に理由や根拠を明確にして伝えることで、相手の理解が深まるようにする。</p> <p>◇「〇さんの考えと少し違って、～した方がいいのでは。」など友だちの考えを生かした発言をさせることで、自分の考えが広がるようにする。</p> <p>◎電子黒板を活用し、自分たちが考えたプログラムを報告することで、互いのペアの考え方を知ることができるようにする。</p> <p>☆ <math>y</math> = 決まった数 <math>\times x</math> の式をどのように活用すればよいかについて話し合わせる。</p> <p>◎ブロックをどのように活用すればよいかを全体で話し合い、試行錯誤を繰り返しながら課題解決を目指すことができるようにする。</p> <p>◇自分の考えを伝える際に理由や根拠を明確にして伝えることで、相手の理解が深まるようにする。</p> <p>◇「〇さんの考えと少し違って、～した方がいいのでは。」など友だちの考えを生かした発言をさせることで、自分の考えが広がるようにする。</p>	<p>タブレット端末 電子黒板 タブレット端末</p>	

まとめ	<p>○ 反比例の関係を表すグラフをかく練習問題に取り組む。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容を活用したプログラムを使えば、コンピュータでグラフをかくことができる。</li> </ul>	<p>◎比例の式を活用したプログラムから、反比例も式を活用できることに気づくことができるようにする。</p> <p>◎ブロックをどのように活用すればよいかをペアやグループで話し合い、試行錯誤を繰り返しながら課題解決を目指すことができるようにする。</p>	<p>電子黒板</p> <p>授業用PC</p> <p>タブレット端末</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>反比例の関係をを用いて、問題を解決しようとしている。(Scratch)</li> <li>身近な問題の発見や解決のためにコンピュータをどのように活用できるかを考えようとする態度を養う。(ワークシート・発言)</li> </ul>
-----	---	---	---	---

(4) 板書計画  
(ホワイトボード①)

**めあて** コンピュータで比例の関係を表すグラフをかくには、どのようなプログラムにすればよいのだろう。

**電子黒板**

	投影内容
導 入	・問題・グラフ (デジタル教科書)
展 開	・発表ノート ・Scratch のソフトウェア
まとめ	・反比例の問題

**問題** 底辺が2cmの平行四辺形の、面積  $y$  cm<sup>2</sup> が高さ  $x$  cm に比例する関係をグラフに表しましょう。

高さ $x$ (cm)	1	2	3	4	5	6
面積 $y$ (cm <sup>2</sup> )	2	4	6	8	10	12

・  $x$  が1 増えると  
 ①  $y$  は 2 増える。      ②  $y=2 \times x$

**まとめ** 学習した内容を活用したプログラムを使えば、コンピュータでグラフをかくことができる。

(ホワイトボード②)

**活動の手順**

```

当緑旗がクリックされたとき
  できる まで繰り返す
  プログラムを考える
  Scratchに入力・試行
  うまいかなかった理由を考える
          
```

**使用するブロック**

● ブロック定義

- $x$  を 増やして、あべのつきーを動かす
- $y$  を 減らして、あべのつきーを動かす
- $y$  を 増やして、あべのつきーを動かす
- 点をうつ

● 演算

- +
- 
- \*
- /

● 制御

- 10 回繰り返す
- ずっと

● 変数

- x
- y



This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

# 特別支援学級① 生活単元学習 学習指導案

授業者 米倉 恵夢・二宮 朗子

- 1 学年・組 特別支援学級（第1学年）3名
- 2 場 所 ブレイルーム
- 3 単 元 名 「ことば・かず はじめのいっぽ」
- 4 目 標

○ 手遊びや読み聞かせ、指導者・友達とのやり取りを通して言葉や数に慣れ親しみ、国語・算数の学習の基礎となる文字・言葉・数に対する感覚を養うとともに、学習の見通しを持ち、着座して課題に取り組むことができる。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>ひらがな（かたかな）を読むことができ、1文字が1音を表すことや、文字の組み合わせによって言葉が構成されていることに気付いている。</p> <p>10程度までの数についてイメージを持ち、指やブロックで表すことができる。</p> <p>習った文字や数字を正しく丁寧に書くことができる。</p>	<p>指導者の問いをよく聞き、適切に答えを返すことができる。</p> <p>絵本の内容に関連した思いや考えを、話型に沿って指導者や友達に伝えることができる。</p> <p>数が増えたり減ったりといった場面を具体物の操作や式で表すことができる。</p>	<p>学習の見通しを持ち、着座して課題に取り組むことができる。</p> <p>文字や言葉、数に関心を持ち、意欲的に活動に参加している。</p>

## 6 指導計画

次	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがなと出あい、自分の名前を書く。</li> <li>・手遊びを楽しむ。</li> <li>・詩の音読（暗唱）をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙と鉛筆を使った練習と併用して発表ノートを活用し、なぞって書く、手本を見て書く、1文字をパーツごとに分けて練習するなどの個に応じた手立てを取ることで、書ける喜びを味わえるようにする。</li> <li>・手遊びをしたり、同じ詩を繰り返し読んだりすることで、言葉のリズムを楽しみ、姿勢や声の大きさ、速さなどに気を付けて、自信をもって発語できるようにする。</li> </ul>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがな（かたかな）の読み方・書き方を、絵本に出てくる絵や言葉と関連付けて覚える。</li> <li>・マッチング課題やごっこ遊びを通じて数を数え、数字や式で表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あっちゃんあがつく」の絵本を繰り返し読み聞かせることで、自然にひらがなの読みが定着するようにする。</li> <li>・発表ノートを活用することで、正しい筆順や字形を習得しやすくする。</li> <li>・読み聞かせや遊びの中で、発表する機会を多く持たせることで、指名されてから発言するなどの学習のきまりや話型に沿った話し方を身に付けられるようにする。</li> <li>・指導者が発表ノートにあらかじめ練習問題を作っておくことで、子どもが見通しをもって1人で学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力し、文字カードをならべて言葉を作る。</li> <li>・きまりを守って文字や数字を使ったゲームに参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末のカメラ機能を使って、できた言葉を記録することで、振り返ることができるようにする。</li> <li>・遊びを通して文字や数字に慣れ親しみ、使えるようにする。</li> </ul>

## 7 本時の学習

### 《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="radio"/> SKYMENU Class（発表ノート）
ICT活用のポイント	<input type="radio"/> 発表ノートを活用して繰り返し練習することで、正しい筆順や字形を習得しやすくする。 <input type="radio"/> プリントと併用してタブレット端末を使用することで、意欲を持続できるようにする。

#### (1) 目標

##### ○（A児）

- ①絵本に注目して読み聞かせを聞くことができる。
- ②筆順に気をつけて丁寧にカタカナを書くことができる。
- ③たし算の式の意味が分かり、計算することができる。

##### ○（B児）

- ①言葉のリズムを楽しみながら読み聞かせを聞き、簡単な質問に答えることができる。
- ②自分の名前を書くことができる。
- ③5までの数を具体物で表すことができる。

##### ○（C児）

- ①絵や言葉に関心を持って読み聞かせを聞き、話型に沿って自分の考えを伝えることができる。
- ②ひらがなの読み方を知り、筆順や字形に気を付けて書くことができる。
- ③場面をたし算・ひき算の式に表し、計算することができる。

#### (2) 協働的な学び

	A児・B児・C児	B児・C児
協働の場面	<input type="radio"/> 「あっちゃんあがつく」の絵本をみんなと一緒に読む。	<input type="radio"/> たし算・ひき算の場面を、具体物を使って表す。
見方・考え方	<input type="radio"/> 言葉を構成する文字を、絵を手がかりにして捉える。 <input type="radio"/> 自分の思いや考え、経験等を絵本の内容と関連付けて発表する。	<input type="radio"/> 「あげる」「もらう」「たべる」などの言葉に着目して場面を捉える。 <input type="radio"/> 数唱と具体物の操作を一致させて数の大きさや増減を捉え、思考する。
言語活動	<input type="radio"/> 話したいことを決め、声の大きさや速さに気を付けて丁寧な言葉づかいで発表する。	<input type="radio"/> 大事な言葉を落とさないように聞き、話し合う。

(3) 展 開

	○主な学習活動 ◎ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント			評価の観点
	A 児	B 児	C 児	
導 入	めあて「なかよくする きまりをまもる さいごまでがんばる」			【学びに向かう力・人間性等】 ・意欲を持って活動に参加し、言葉のリズムを楽しんでいる。 (行動観察)
	○ はじめのあいさつをする。 ○ 音読をする。	○ はじめのあいさつをする。 ○ 音読をする。	○ はじめのあいさつをする。 ○ 音読をする。	
展 開	○ 文字に着目して読み聞かせを聞く。 ☆話しかけたり、文字を指し示したりすることで興味を持続させる。 ◇友達や指導者が読む声を聞くことで、言葉や読書に関心を持つことができるようにする。	○ 読み聞かせを聞きながら、一緒に声を出して読む。 ・絵を見て内容を捉え、指導者の簡単な質問に答える。 ☆質問することで、内容の理解を助け、発言を引き出す。 ◇正しい言葉づかいを意識させる。	○ 文字に着目して読み聞かせを聞きながら、一緒に声を出して読む。 ・絵を見て内容を捉え、自分の思いや考えを話型に沿って発表する。 ☆話型の見本を提示することで、思いや考えを発表しやすくする。 ◇正しい言葉づかいや態度を意識させる。	【思考・判断力・表現力等】 ・絵本の内容から発想を膨らませ、思いや考えを適切に表現している。 (行動観察) 【知識・技能】 ・絵本に出てくる絵や言葉と文字を関連付けて捉える。 (行動観察)
	○ かたかなの読み方を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px auto;">             タブレット 端末           </div> ◎タブレット端末を活用することで、1人で課題に取り組むことができる。 ○ 運筆の練習をする。 ○ かたかなの練習をする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px auto;">             タブレット 端末           </div> ・タブレット端末で筆順を習得してから、プリントで練習する。	○ 運筆の練習をする。 ○ 名前を書く練習をする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px auto;">             タブレット 端末           </div> ・タブレット端末で字形を確認してから、プリントで練習する。 ◎発表ノートを活用して練習することで、筆順や字形を身に付けやすくする。 ○ 数字カードとブロックのマッチング課題をする。	○ 既習のひらがなの読み方を復習する。 ・マッチング課題で遊びながら定着するようにする。 ○ ひらがなを書く練習をする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px auto;">             タブレット 端末           </div> ・タブレット端末で筆順を習得してから、プリントで練習する。 ◎発表ノートを活用して練習することで、筆順や字形を身に付けやすくする。	【知識・技能】 ・筆順や字形に気を付けて、正しく文字を書いている。 (発表ノート・プリント) 【学びに向かう力・人間性等】 ・指示を理解し、自分の力で学習課題に取り組んでいる。 (行動観察)

展開	<p>○ たし算の練習問題に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">タブレット 端末</p>	<p>○ お店屋さんごっこをする。</p> <p style="text-align: center;">タブレット 端末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物进行操作し、数を数える。</li> </ul> <p>☆動作化することで場面を理解しやすくする。</p> <p>◇操作を通して友達とやり取りができるようにする。</p>	<p>○ お店屋さんごっこをする。</p> <p style="text-align: center;">タブレット 端末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物进行操作し、品物の数を式に表す。</li> </ul> <p>☆ポイントとなる言葉を強調して伝え、理解しやすくする。</p> <p>◇自分の考えを適切に友達に伝えることができるようにする。</p>	<p>【思考・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の課題に沿って活動に取り組んでいる。</li> </ul> <p>(発表ノート・行動観察)</p>
まとめ	<p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習を振り返り、自分や友達の頑張りを認めている。</li> </ul> <p>(行動観察)</p>

# 特別支援学級② 国語科・算数科 学習指導案

授業者 須田 帆南・櫻井 里絵

- 1 学年・組 特別支援学級（第4学年）5名
- 2 場 所 ブレイルーム
- 3 単 元 名 「国語科・算数科 漢字や計算にチャレンジ！」
- 4 目 標
  - 指導者・友達とのやり取りや、音読を通じて言葉に慣れ親しみ、国語・算数の学習の基礎となる文字・言葉・数に対する感覚を養う。また、学習の見通しを持って、1人で課題に取り組むことができる。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>ひらがなやかたかなを読むことができ、単語として意味を理解している。また、曜日や数字の漢字を筆順に気を付けて書くことができる。</p> <p>7程度までの数の分解が分かり、言葉で伝えることができる。</p> <p>習った文字や数字、漢字を正しく丁寧に書くことができる。</p>	<p>指導者や友だちの話をよく聞き、適切な答えを返すことができる。</p> <p>友だちの音読を聞き、アドバイスをすることができる。</p> <p>たし算の式を見て、具体物や指を使い、工夫して計算をすることができる。</p>	<p>学習の見通しを持ち、一人で課題に取り組むことができる。</p> <p>文字や言葉、数に関心を持ち、意欲的に活動に参加している。</p>

## 6 指導計画

次	主 な 学 習 活 動	活動のポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かたかなを、筆順に気を付けながら書く。</li> <li>・詰まる音に気を付けて、促音が含まれている単語を読む。</li> <li>・遊びやゲームを通じて数の大小を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表ノートを活用することで、正しい筆順や字形を習得しやすくする。</li> <li>・かたかなが使われている単語を書き、書いた字を読むことで、読みも合わせて学べるようにする。</li> <li>・発表ノートを活用し、文字を並べ替えることで、促音について理解できるようにする。</li> <li>・ブロックなどの具体物を数え、比較することで数の大小についての理解が深まるようにする。</li> </ul>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曜日や数字の漢字を読み、書く。</li> <li>・簡単な数のたし算をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチング課題を使うことで、漢字の読みが定着するようにする。また発表ノートを活用し、正しい筆順や字形で字を書けるようにする。</li> <li>・筆順を学んだあとにノートやプリントに漢字を書き、字形が定着するようにする。</li> <li>・具体物を使って何度も繰り返し学習することで、たし算のしくみが理解できるようにする。</li> </ul>

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生で学習する漢字を読み、書く。</li> <li>・たし算の文章問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチング課題を使うことで、漢字の読みが定着するようにする。また発表ノートを活用し、正しい筆順や字形で字を書けるようにする。</li> <li>・「たす」ことの意味を理解し、文章を聞いて答えの求め方が理解できるようにする。</li> </ul>
---	---	--

## 7 本時の学習

《本時のICTの活用について》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ヘッドホン）
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> SKYMENU Class（発表ノート） <input type="checkbox"/> 動画記録機能 <input type="checkbox"/> やるKey
ICT活用のポイント	<input type="checkbox"/> 発表ノートを活用して繰り返し練習することで、正しい筆順や字形を習得しやすくする。また、たし算の式を見て、空いているところの数字をおはじきの絵を見て考え、答えることができる。 <input type="checkbox"/> 指導者の音読を聞き、単語や語彙を学べるようにする。 <input type="checkbox"/> 算数で学習している内容や、プリント学習で間違えた問題の単元をやるKeyで振り返ることで、一人一人に合った学習ができるようにする。

### (1) 目 標

#### ○（A児）

- ①自分の名前を呼ばれたら返事をするなど、タイミングよく発言することができる。
- ②詩のリズムを楽しみ、友だちや指導者と語尾を合わせて音読の発表をすることができる。
- ③「手前・奥」の言葉の意味が分かり、進んでマッチング課題に取り組むことができる。

#### ○（B児）

- ①学習の見通しを持って、課題に取り組むことができる。
- ②数の分解を理解し、指導者や友だちに伝えることができる。
- ③教材を操作しながら、促音が使われている単語の正しい字の並びを理解することができる。

#### ○（C児）

- ①学習の見通しを持って、着座して課題に取り組むことができる。
- ②数の分解を理解し、指導者や友達に伝えることができる。
- ③教材を操作しながら、促音が使われている単語の正しい字の並びを理解することができる。

#### ○（D児）

- ①友だちの音読を聞き、アドバイスすることができる。
- ②字形に気を付けて、名前や漢字を丁寧に書くことができる。
- ③問題をしっかり読み、1人で学習課題に取り組むことができる。

#### ○（E児）

- ①友達の音読を聞き、アドバイスすることができる。
- ②2年生程度の漢字を書くことができる。
- ③算数の既習内容を理解し、1人で問題を解くことができる。

(2) 協働的な学び

	A児・B児・C児・D児・E児	B児・C児
協働の場面	○ 詩の音読を、声を合わせて行う。	○ 発表ノートを見て、拗音の使い方を学習する。
見方・考え方	○ 声の大きさや速さに着目して、友達の音読を聞く。 ○ 詩を指差しながら音読をすることで、文字と言葉が一致するようにする。	○ 小さい「っ」をどこに入ればよいかを、発表ノートのカードを操作しながら思考する。 ○ 単語の読み方を頼りにして、正しい単語の並び方を捉える。
言語活動	○ 声の大きさや速さに気を付けて、話型に沿ってアドバイスする。	○ 自分の発表ノートと友達の発表ノートを比べて、自分と同じ考えかどうかを友達や指導者に伝える。

(3) 展 開

	○ 主な学習活動 ◎ ICT活用のポイント ☆見方・考え方を働かせるための手立て ◇言語活動のポイント					評価の観点
	A児	B児	C児	D児	E児	
導 入	めあて「なかよく かしこく まじめにがんばる」					【学びに向かう力・人間性等】 ・意欲を持って活動に参加し、言葉のリズムを楽しんで音読をしている。 (行動観察)
	○ あいさつ・はじめの会をする。 ○ 詩の音読をする。 ☆指導者と一緒に音読をすることで、語尾を合わせて言えるようにする。	○ あいさつ・はじめの会をする。 ○ 詩の音読をする。 ☆詩を指差しながら音読をすることで、文字と言葉が一致するようにする。	○ あいさつ・はじめの会をする。 ○ 詩の音読をする。 ☆詩を指差しながら音読をすることで、文字と言葉が一致するようにする。	○ あいさつ・はじめの会をする。 ○ 詩の音読をする。 ☆アドバイスの視点を提示することで、友達に自分の意見を伝えられるようにする。 ◇声の大きさや速さに気を付けて、話型に沿ってアドバイスする。	○ あいさつ・はじめの会をする。 ○ 詩の音読をする。 ☆アドバイスの視点を提示することで、友達に自分の意見を伝えられるようにする。 ◇声の大きさや速さに気を付けて、話型に沿ってアドバイスする。	



展 開	<p>○ 筆記用具を使って描く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな筆記用具を使い、線や円を描く練習をする。</li> </ul>	<p>○ 漢字の練習をする。</p> <p><b>タブレット端末</b></p> <p>◎指導者があらかじめ課題の量を設定することで、学習の見通しが持てるようにする。</p>	<p>○ たし算の練習をする。</p> <p><b>タブレット端末</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表ノートにおはじきの画像を貼っておくことで、計算するときの手立てとなるようにする。</li> </ul>	<p>○ 漢字の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の字形や筆順に気をつけて、漢字の練習をする。</li> <li>・時間内に全ての字が書けるようにする。</li> </ul>	<p>○ 漢字の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の字形や筆順に気をつけて、漢字の練習をする。</li> <li>・丁寧に書くように意識させる。</li> </ul>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（Ｄ児・Ｅ児）自分のやるべき課題を理解し、１人で学習に取り組むことができる。（行動観察）</li> </ul>
	<p>○ 友達の言葉を聞きながら、声を合わせて指導者や友だちと一緒に数を数える。</p>	<p>○ 具体物を使って数の分解を学習する。</p>	<p>○ 具体物を使って数の分解を学習する。</p>			<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（Ｂ児・Ｃ児）箱の中に入っている数がいくつかを考え、友だちや指導者に伝えている。（行動観察）</li> </ul>
	<p>○ 指導者があらかじめ録音しておいた音読を聞く。</p> <p><b>タブレット端末</b></p> <p>◎指導者の音読を聞き、単語や語彙の理解が深まるようにする。</p>	<p>○ 促音が使われている単語の字を並べ替え、正しい単語の並びを考える。</p> <p><b>タブレット端末</b></p> <p>☆小さい「っ」をどこに入ればよいか発表ノートのカードを操作しながら思考する。</p>	<p>○ 促音が使われている単語の字を並べ替え、正しい単語の並びを考える。</p> <p><b>タブレット端末</b></p> <p>☆単語の読み方を頼りにして、正しい単語の並び方を捉える。</p>	<p>○ 漢字テストをし、間違えたところを直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違えた漢字をていねいに練習することで、字形が習得できるようにする。</li> </ul>	<p>○ ３年生の算数の学習をプリントでする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の内容を振り返りながら、学習内容が定着するようにする。</li> </ul>	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（Ｂ児・Ｃ児）正しい単語の並びについて、言葉を並べ替えながら思考している。（発表ノート）</li> </ul>

	<p>○ 「手前・奥」のマッチング課題をする。</p> <p>・指導者の言葉をよく聞き、正しい動作ができるように音を出したり声掛けをしたりする。</p>			<p>○ 4年生の算数の学習に取り組む。 (やるKey)</p> <p>タブレット 端末</p>	<p>○ プリントで間違えた算数の単元の学習に取り組む。 (やるKey)</p> <p>タブレット 端末</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>・(A児)指示を理解し、指導者の指示通りに動作ができています。 (行動観察)</p>
まとめ	<p>○ めあての確認をする。</p> <p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>○ めあての確認をする。</p> <p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>○ めあての確認をする。</p> <p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>○ めあての確認をする。</p> <p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>○ めあての確認をする。</p> <p>○ おわりのあいさつをする。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】</p> <p>・めあてが達成できたかを振り返る。 (行動観察)</p>

[illegible]



**2020年度  
「視聴覚教育総合全国大会」  
「放送教育研究会全国大会」  
大阪大会 授業公開予定**